

平成26年度 第3回  
三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進本部会議概要

- 1 開催日時：平成27年3月12日（木）10:30～11:00
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり  
（○挨拶、●事務局説明・回答、☆意見・質問）

○知事挨拶

- ・今回は前回の「三重県の人口動向分析・将来人口推計」を基に作成した「人口ビジョン」の骨子案と、前回提示した合計特殊出生率と転入超過数の仮定値から得られた、将来人口に関する6つのシミュレーション結果について、事務局から説明してもらう。
- ・今後は、議会や、三重県地方創生会議等での議論も踏まえて、三重県としてどのような将来展望を描くのか決定していく必要があるので、内容を十分に理解して、今後の議論に活かしてほしい。
- ・「総合戦略」では、前回提示した「策定にあたっての基本的な考え方」をベースに、自然減対策のライフステージ毎、社会減対策のライフシーン毎に、基本的な取組方向と取組項目を加えた骨子案について、事務局から説明してもらう。
- ・骨子案の策定にあたっては戦略企画部と各部局で一定協議していると思うが、この場で確認しておきたいこと、今後に向けて議論しておくべきことがあれば、意見等をお願いしたい。
- ・特に、国の交付金を活用する地方創生先行型に盛り込んだ事業だけでなく、総合戦略に盛り込むべき事業をしっかりと議論してほしい。

議題1 「三重県人口ビジョン（仮称）」の骨子案及び三重県の将来人口に関するシミュレーション結果について

●大橋企画課長（資料1及び資料2に基づき説明）

「三重県人口ビジョン（仮称）骨子案」については、前回お示しした「三重県の人口動向分析・将来人口推計」からの変更点のみを説明したい。

「みえ県民意識調査」において、幸福感を判断する際に重視した事項として「家族」を挙げられた方が最も多いという三重県の特徴等をふまえ、家族類型別世帯数等の分析を行った。

これまでの分析を踏まえ、「5 人口減少及び人口構成の変化がもたらす課題」を追加し、「II 三重県における人口の将来展望」として「1 めざすべき人口

の将来展望」及び「2 対策の方針」を項目のみ記載している。

三重県の将来展望については、たたき台として、前回お示しした6つのパターンでシミュレーションを行った。

追加的な政策を打たず、今のまま推移した場合、2060年の総人口は約120万人まで減少するが、施策を打って、人口減少に歯止めがかかる場合、約135万人から約143万人となる。

今後、議会や三重県地方創生会議等での議論を踏まえて、どのターゲットに向かって政策を推進していくのか、議論していきたいと考えている。

☆水谷地域連携部長

シミュレーションにおける転入超過数のパターン①と②では、転出超過数が、減少した後、0で安定化させているが、安定化せず、転入超過数が増加するパターンは検討しないのか。

●大橋企画課長

直近3年間では平均約3,000人が流出していること、大都市部へ人口が集中する傾向にあることを前提とすれば、転出者と転入者を均衡させることが現実的なターゲットであると考えている。

国も東京への一極集中に歯止めをかけることとしているため、転入者と転出者が均衡していくのではないかと考えている。

☆渡辺廃棄物対策局長

社人研推計では、転入者と転出者が均衡した後、2060年まで転入者数が増加しているように見えるが、県のシミュレーションで0に安定化させるのはなぜか。

●森企画課主幹

社人研推計は、2045年以降、多少転入超過となっているが、移動率が、今後一定程度縮小すると仮定している。一方、日本創成会議は、移動数が今後も概ね同水準で推移すると仮定している。

このことから、パターン②は社人研推計、パターン③は日本創成会議の推計に近い仮定値としている。

☆渡辺廃棄物対策局長

パターン③は、施策を打つにも関わらず、社人研推計より転出超過数が多いシミュレーションとなっているのはなぜか。

●森企画課主幹

社人研推計は、2005年から2010年の5年間の転入超過数の平均を用いているが、直近3年間の転入超過数はより厳しい数字となっているため、まずは転入者と転出者を均衡させることが大切であると考えている。

☆渡辺廃棄物対策局長

シミュレーションとしては、転入者が増加するパターンがあってもよいのではないか。

☆森下南部地域活性化局長

施策を打つにも関わらず、転出超過のままシミュレーションするのはいかなものかと思う。

☆西城子ども・家庭局長

いくつか示すパターンの中で、転入超過数を安定化させることは、現実的なパターンとしてあってもいいのではないかと思う。

パターン②で2040年に転入超過数を0にしているのはなぜか。

●森企画課主幹

国の将来推計で、合計特殊出生率を2.1に安定させているのが2040年であるため、人口移動もそのタイミングで収束させることを想定している。

☆西城子ども・家庭局長

2040年に転入超過数を0にする根拠があるわけではないのか。

●大橋企画課長

科学的な根拠や積み上げがあるわけではない。

☆知事

今の指摘を踏まえて、戦略企画部では、根拠を含めて論理的な整理をしてほしい。

## 議題2 「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」の骨子案について

### ●大橋企画課長（資料3に基づき説明）

本戦略は、国の「長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案するとともに、「三重県人口ビジョン（仮称）」と一体となって策定するもので、本県の人口減少の克服と地域の自立かつ持続的な活性化に向けた現状と課題、めざす姿、そして最初の5年間の基本的な取組方向と取組項目を示すものである。

最終的には、平成27年度に策定する次期行動計画の一部として位置づけることを想定している。

「2. 県の役割」として、すべての県民、関係者等が自らの地域と人口減少に関わる現状と課題を正しく理解し、めざすべき姿を共有した上で、アクティブ・シチズンとしてより一層の協創を進めることが重要であると考えている。このため、本戦略に基づく取組を着実に推進するとともに、積極的な情報発信やさまざまな立場の人や組織を結びつける取組などを推進する。

また、市町と緊密な連携・協力を進め、総合調整を図ることとしている。

「3. 人口の現状」については、人口ビジョンのところで説明したので、省略する。「4. 基本的な視点」及び「5. めざす姿」については、前回から大きな変更はない。

「6. 基本的な取組方向と取組項目」は、これで決まりというわけではなく、今後詰めていきたいと考えている。

「(3) 基盤」については、新たに追加した項目となっている。「(3) 基盤」については、KPIを設定して毎年評価するわけではなく、一つ一つの事業については、次期行動計画で評価していくことを想定している。

### ☆佐々木医療対策局長

「県民が安心して暮らし続けられる」という理念をどこかに追加できないか。

### ●大橋企画課長

「5 めざす姿」などに記述することを検討したい。

### ☆知事

「4 基本的な視点」の「(2) 県独自の視点」か「5 めざす姿」に記載するのがよいのではないか。

### ☆西城子ども・家庭局長

「(3) 基盤」を自然減対策や社会減対策とは別に記載し、検証をしないの

はなぜか。

●大橋企画課長

一つ一つの事業は評価を行うため、「(3)基盤」を別に記載する理由がわかるように記述していきたい。

☆土井県土整備部長

「基盤」を重要な項目として記載していただいたことはありがたいが、「基盤」だけではなく「基盤づくり」など、取組の方向性も記載していただきたい。

●大橋企画課長

方向性も記載していきたい。

☆稲垣防災対策部長

「基盤」にはハード整備を記載し、「暮らす」には「地域防災力の向上」を新たに追加してもらっているため、一定整理されていると考えている。

☆石垣副知事

「(3)基盤」に「拠点機能の集約化」が記載されているが、広域圏を想定しているのか。

●大橋企画課長

具体的な方針は持っていないが、国の流れ、市町の現在の取組状況から、このような記載が必要ではないかと考えている。

☆石垣副知事

県と市町では役割が異なるため、県の立場を明確化する必要があるのではないか。

●大橋企画課長

再検討させていただきたい。

☆知事

私からは、

- ・今回、総合戦略の骨子案で提示した基本的な視点のうち、特に、
- ・「攻めの対策」と「守りの対策」では、「守りの対策」、

- ・「量」の拡大と「質」の向上では、「質」の向上が弱い部分であると思うので、それらの検討を通して「三重県らしさ」と「三重県ならではの」を追求した取組を検討すること。
  - ・今後、中間案の策定に向けて、原則「アウトカム」に関する指標を重要業績評価指標（KPI）として設定する必要があることを十分踏まえて、ファクト（事実）とロジック（論理）に基づき取組の検討を行うこと。
- の2点をお願いしたい。